



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

地域高齢者の閉じこもり予防と生活支援に関する研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 石原, 多佳子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/730

はじめに

郡上市は、平成16年3月に郡上郡が合併し誕生したばかりの市である。日本そして岐阜県のほぼ中央部に位置し、東部は下呂市に接し、北部は清見村および荘川村に、西部は板取村、洞戸村、福井県大野市および和泉村に、南部は美濃市、武儀町および上之保村に接している。また郡上市の面積は、全体で1030.79k㎡（八幡地域242.31k㎡、大和地域154.48k㎡、白鳥地域197.43k㎡、高鷲地域103.71k㎡、美並地域79.81k㎡、明宝地域154.86k㎡、和良地域100.19k㎡）あり、岐阜県の面積の約10%となっている。特に本研究の対象である白鳥町は、白山国立公園内にあり自然に恵まれ、白山信仰で栄えた町でもある。特に冬季は5つのスキー場があり、近年高速道路が開通したのを機に、多くの観光客が訪れている。

さて現在、介護保険を取り巻く状況を見ると、介護予防への取り組みは、介護保険法による介護給付、介護予防地域支え合い事業（市町村事業）、老人保健事業（市町村保健事業）、の3つから成る。しかしこれらのサービスは制度・事業の一貫性や連続性に欠け、対象者に空白や重複があること、サービス内容にも統一性がなく、各職種間の連携も不十分である。また対象者のニーズや状況に関する的確なアセスメントやサービスの結果に対する適切な評価が不十分なまま実施されている。つまり、統合的にマネジメントするシステムができていない。本年介護保険制度見直しの中で介護予防サービスが大きく見直されているところである。

一方、市町村合併が進むなかで、効率の悪いサービスや、その効果が評価されにくいサービスは切り捨てられる傾向にある。また、介護保険制度の見直しの中で、介護予防の拠点として新たに地域包括支援センターを位置づけ、そこで社会福祉士及び保健師を担当職とし、介護予防マネジメント機能を強化していくことが検討されている。今、保健師活動のなかで高齢者に関する業務を福祉分野に手放しつつあるようにも見受けられる。しかしこの見直しの中では「健康な85歳」を目標に、ライフステージごとの適切なサービス提供の必要性を指摘している。

本研究においても、3年間研究期間の中で研究対象である白鳥町が合併し郡上市になり、その流れの中で、研究の中でできあがったサロンも解散せざるをえなくなる状況がうまれてきた。行政の機構や制度が変わると保健師活動も大きく変化していく現実を目の当たりにしながら、現場の保健師の方々や地域の高齢者の人々と研究を進めてきた。本研究では高齢者の生活状況実態把握のためのアンケート調査と、それに基づき高齢者の健康意識を高めるための継続的な個別健康学習の実施とその効果、外出頻度の少ない高齢者の家庭訪問による生活実態の把握と、その結果として後期高齢者の集いの場（サロン）の立ち上げを通して高齢者の閉じこもり予防における保健師の支援のあり方を模索した。今後も継続して住民の方々自身の健康に対する意識が行動に結び着くことをめざして研究を進めていきたいと思っている。